



パソコン甲子園に出場する村木さん



パソコン甲子園と全日本模擬国連 秀峰5年生4人が出場

松本

松本秀峰中等教育学校(松本市穂郷)の5年生(高校)4人(いずれも17歳)が、高校生と高専生対象の「パソコン甲子園2022」プログラミング部門本選(5、6日、福島県)と「第16回全日本高校模擬国連大会・本選」(12、13日、東京都)に出場する。

力合わせ上位目指す

パソコン甲子園に出場するのは、的場岳斗さんと服部選手のチーム。5000チームが出場した予選で上位36組に入り、昨年に続き本選切符を得た。競技は、4時間の制限時間内に問題に対する解答プログラムを作り、正解した問題の合計得点で競う。2人は始業前や授業の空き時間、自主活動の時間に練習。ウェブサイトで毎週行う競技プログラミングコンテストにも挑戦し、腕を磨いてきた。

的場さんはアプリ開発者の父親の影響で、小学生の時にプログラミングを始めた。「自分が思い描いたことを表現できるプログラム

にロマンを感じる」といいい、今年是对開催催なので、レベルの高い相手との対戦にワクワクする。ぜひ入賞したい」と意気込む。2人は高校生のプログラミング大会「第28回スーパーコンピュータコンテスト」(8月)で3位入賞。12月の情報オリンピック女子予選にも出場予定という。



模擬国連大会に出場する村木さん(左)と三代澤さん

模擬国連大会には、村木裕太さんと三代澤咲さんが出場する。自分の国と関係なく割り振られた担当国の外交官になりきり、決議案

「論破するのではなく、相手国の立場を尊重しつつ考えをすり合わせ、納得のいく決議をまとめることが大切。大会への挑戦で英

をまとめるための交渉力を一人一組で競う。意見や提案は英語、交渉は日本語だ。今大会の議題は「多国籍企業及び社会政策に関する原則の三者宣言」。2人は10月初めから担当国の経緯や歴史、社会保障、どんな多国籍企業があるかなどをインターネットや資料などで情報収集。出場した260チームのうち予選通過の80チームに入った。

村木さんは「大会の参加者が少ない地方にも模擬国連を広め、会議を経験する場を増やしたい」と自身で団体をつくり、県内の高校生とオンラインで活動してきた。

「論破するのではなく、相手国の立場を尊重しつつ考えをすり合わせ、納得のいく決議をまとめることが大切。大会への挑戦で英語力はもちろん交渉力、プレゼン力が身に付いた」。三代澤さんは「初めは反対意見を恐れて主張することが苦手だったが、できるものになった。補い合って来書、米國で開かれる国際大会出場を狙いたい」と話した。